

▼フレンズコーナー：土木遺産

伊吹せんろみち

～米原市春照/住友大阪セメント廃線跡～

NTT ビジネスソリューションズ
雲林院 ゆみ

1. 絶景の中で、廃線跡を散策してみませんか？

今回ご紹介するのは、米原市春照の「伊吹せんろみち」。

ここには 1952（昭和 27）～1999（平成 11）年の間、住友大阪セメントが機関車で資材を運ぶ、専用線が通っていました。線路が敷かれ蒸気機関車・電気機関車が通っていましたが、時代の流れとともに廃線に。役目を終えた線路は、地域発展の歴史を次の世代に受け継ぐために、住民参加型で、親子で遊べるサイクリング&ウォーキング遊歩道として整備されました。

約 2.5km の道の間は、2 本のトンネル、当時の架線柱・橋梁跡・撤去されたレール・枕木・ホッパー跡など、見どころだらけ！ 伊吹山をのぞむ美しい景色の中、安全に整備された道で貴重な遺構に触れられる、鉄道ファンなら要チェックのスポットです。是非、本稿と併せて、下記の動画を見てみてください。

<https://www.webaminchu.jp/news/7434/>



2. 所在地

JR 東海道本線の近江長岡駅より少し北へ、伊吹建設工業（米原市村木 756）付近の県道 244 から脇に入った所からスタートです。すぐに東海道新幹線の高架下をくぐり、その先県道 551 を横断し、国道 365 と弥高川をくぐり、伊吹薬草の里（米原市春照 37）付近まで伸びます。薬草の里の横にゴール地点となる線路と駅舎モニュメントが建っています。その先には滋賀鉱産の砕石出荷場があり、その付近に住友大阪セメント伊吹工場跡が広がります。



3. 鉄道遺構

1) 鉄道橋梁

スタート地点には橋が残っていて、そこを渡って行きます。主桁フランジにレールが飾られています。ウェブの内側には「大阪窯業セメント株式会社 1960 年」と書かれた銘板が付いたままです。



2) その他の遺構

電気設備？信号？の BOX、ホッパー跡、枕木、レール、さらに架線柱も当時のまま何本も残されています。

工場ができた当初は蒸気機関車が活躍しましたが、ディーゼル機関車になり、昭和 31 年（1956 年）に電化され、電気機関車いぶき 501・502 号が走っていました。



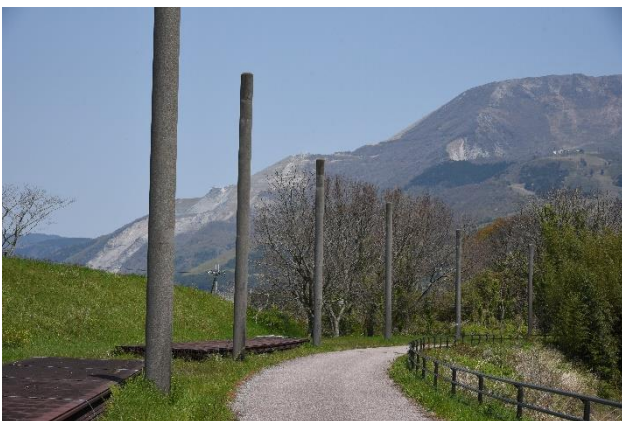
ホッパー跡



枕木



レール



当時のまま立っている架線柱（奥の山は伊吹山）

3) トンネル①②

今は国道の（官設）廃線跡と天井川をくぐる（専用線）廃線跡のトンネルというマニア的には面白い場所です。トンネルはコンクリートにて補修されているのが分かりますが、擁壁はそのままの姿で残っているようです。



トンネル①：国道 365（初代東海道本線の廃線跡）の下をくぐる



トンネル②：弥高川の下をくぐる

4) 終点の駅舎

終点には、駅舎風の休憩所が整備されています。公益財団が運営する「伊吹薬草の里文化センター」の一角になります。



レールと駅舎モニュメント



レールは当時のものかも??

■シリーズ「土木遺産の女」

滋賀県内各地に残る魅力的な土木構造物を、土木構造物大好きくものすけ副隊長がご紹介しています！

<https://www.webaminchu.jp/news/?feature=civilianheritage-woman>

■「伊吹せんろみち」の命名

米原市は、この廃線敷を遊歩道としてリニューアルした際に、愛称を募集したところ市内外から 100 点もの応募がありました。その中の最優秀作：坂田小学校 1 年生の作品です。